

大阪大学工学部生物工学系同窓会

# 尚醸会会報

第 28 号

大阪大学工学部

醸造・醗酵・応用生物工学科同窓会

尚醸会

令和7年9月

## 尚醸会バイオテクノロジーセミナー（同窓会）

本年度は対面形式とオンライン配信を組み合わせた、  
ハイブリッド形式での開催とさせていただきます。

開催日 令和7年11月8日（土）

開催方法 対面形式（吹田キャンパス、サントリーメモリアルホール）および  
オンライン（Zoom）のハイブリッド

### プログラム

14:00 受付開始

14:30 総会

15:00 講演会（バイオテクノロジーセミナー）

15:00-15:45 藤井 健治 氏

デンカ株式会社 ライフイノベーション部門 研究開発企画推進部、  
（平成17年博士課程修了）  
「デンカ（株）のライフサイエンスへのアプローチの変遷とその中での

### 私の取組み

15:45-16:3 平田 善彦 氏

サラヤ株式会社 商品開発本部 本部長 兼 サラヤ総合研究所 所長  
（平成9年修士修了）  
「いのちをつなぐ挑戦 — サラヤが描く、洗浄の未来と海洋保全」

17:00-19:00 交流会

開催場所は吹田キャンパス内を予定しております。  
交流会参加費 5,000円

出席される方は、下記1～3のいずれかの方法でお申し込み下さい。

交流会参加の方は、2025年10月10日までにお申し込みください。

1. 出席申込フォーム (<https://forms.gle/Zgy783C5JXpdV7hm7>)

（右記QRコードからもアクセス可）

2. E-mail ([doso@bio.eng.osaka-u.ac.jp](mailto:doso@bio.eng.osaka-u.ac.jp))

3. 同封の用紙にて Fax または郵送

当日までに参加申し込み時にご記入いただきましたメールアドレスに Zoom の参加に必要な情報をお送りいたします。



出席申込フォーム↑

## 目次

巻頭言	福崎 英一郎	1
教室の最近の動向	紀ノ岡 正博	2
各研究室の近況		3
教員紹介	元根 啓佑	7
<<同窓会通信>>		
近況報告：筑波山と牛久大仏を眺めながらの 動植物ハイブリッド細胞研究	松永 幸大	8
近況報告：機械工学者の参画と奮闘の思い出	鈴木 宏明	9
令和6年度尚醸賞の授与		10
令和6年度工学賞を受賞して	嶋吉 琴葉	11
令和6年度尚醸会バイオテクノロジーセミナー 報告	岡橋 伸幸	12
令和6年度尚醸会企画OB・OG懇談会開催報告	新聞 秀一	13
令和6年度2年生重要事項説明会開催報告	大政健史・山野範子	15
令和6年度SSSVプログラム参加学生へのご支援に対する 御礼とご報告（とお願い）	本田 孝祐	16

### 令和6年度同窓会会計報告

大阪大学工学部 醸造・醱酵・応用生物工学科同窓会「尚醸会」会則

### 同窓会現組織・会員の動向

- 教職員の異動
- 会員訃報
- 令和7年3月卒業、修了生進路等
- 教室の構成
- クラス会幹事

会員各位

## ポストコロナの学生気質と尚醸会の役割

大阪大学工学研究科生物工学専攻

福崎英一郎（昭和 58 年卒）

関達治会長から幹事長を拝命し、数年にわたり尚醸会の運営に関わらせていただきました。この度、藤山和仁先生に幹事長を交代していただきました。長年にわたり尚醸会会員各位には大変お世話になりました。紙面にてお礼申し上げます。

さて、コロナで封印されていた対面交流もほぼコロナ以前の状態に戻りつつありますが、生物工学の世界は、今まさに大きな転換期を迎えております。気候変動や食糧問題、健康・医療の多様化など、地球規模の課題に対して、バイオテクノロジーが果たすべき役割はますます大きくなっています。微生物の潜在能力を駆使した再生可能資源の利用、持続可能なものづくり、パーソナライズド医療や AI を活用した創薬、さらには合成生物学やメタボローム解析をはじめとしたトランスオミクス技術など、産業界におけるバイオテクノロジーへの期待は極めて高まっています。こうした時代の潮流の中で、我々生物工学専攻の卒業生は、学术界・産業界・行政など多様なフィールドでその専門性を活かし、活躍の場を広げています。これはひとえに、歴代の先生方の熱意ある教育と、学生同士の切磋琢磨によって培われた土壌の賜物であり、尚醸会の皆様の不断の努力と研鑽の成果でもあります。

一方で、大学院に学ぶ現役の学生たちは、コロナ禍を経てなお不確実性の高い社会の中で、自らの進路や研究の意義を問いながら日々挑戦を続けています。ポストコロナの環境では、オンライン活用の浸透により効率的な情報収集やタスク処理が進む一方で、研究室に滞在する時間は以前より短くなる傾向が見られます。効率性を重視する流れは理解できる一方で、実験室で試行錯誤し、雑談や偶発の議論の中から生まれる「ひらめき」や「執念深い探求心」が、やや希薄になってきているのではないかと感じることもあります。科学の本質は、非効率であっても、泥臭いプロセスの中にこそ宿るものではないでしょうか。こうした姿勢をいかに次世代に伝えていくかは、私たち尚醸会会員にも問われているテーマです。

尚醸会には、若い世代に対して、知識や経験だけでなく、「生物工学を学ぶことで世界にどう貢献できるか」という視座を共有する責任があると考えています。尚醸会は、そうした世代間の交流を促す場としても、今後ますますその役割を果たしていくべきだと感じています。同窓会とは、単なる親睦の場にとどまらず、それぞれの立場や世代を超えて学び合い、連携し合うことで、母校と社会をつなぐ架け橋であり続ける存在です。とりわけ、生物工学のように学際的かつ社会実装が強く求められる分野においては、学内外を問わず、知のネットワークが極めて重要になります。

今後も尚醸会では、学術と産業の両面に通じる「共創」の場を意識しながら、現役学生にとってはロールモデルとの出会いの機会を、卒業生にとっては原点を振り返るきっかけを提供してまいります。引き続き、皆様の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 教室の最近の動向

2025 年度生物工学専攻専攻長  
バイオテクノロジー学科目学科目長  
紀ノ岡 正博

2025 年度の専攻長（大学院）、学科目長（学部）を拝命しました紀ノ岡正博です。

まず、本年 4 月から、大阪大学は英語名を、The University of Osaka に改称されました。また、2025 年 3 月 31 日をもって、村中俊哉先生がご退職され、名誉教授とされました。その後、5 月 1 日より、關 光 准教授が教授に昇任され、細胞工学領域を主宰することとなりました。青木研では、昨年度、元根啓佑助教が就任され、本年 4 月からは、小坂唯心助教が就任されました。さらに、關研究室に、8 月 1 日付で田村啓太准教授が着任されました。また、2025 年 5 月 1 日現在、生物工学専攻には、教授 7 名、准教授 7 名、助教 5 名の教員が在籍しております。加えて、生物工学国際交流センター（5 名）、情報科学研究科バイオ情報工学専攻（5 名）および蛋白質研究所蛋白質結晶学研究室（2 名）に先生方が在籍され、専任教員各位が協力して、生物工学関連研究室（以下、当教室）といったグループを形成し、学部および大学院の教育を行っております。また、当教室には、専任教員に加えて、特任教員 15 名、特任研究員 20 名、技術職員 1 名、さらに多くの技術補佐員並びに事務補佐員が在籍し、教育・研究に関与していただいております。産学連携では、2 つの協働研究所、6 つの共同研究講座も生物工学コースと密接に活動していただいております。現在当教室には、英語コース所属の大学院生を含め、博士後期課程 86 名、博士前期課程 129 名、学部研究室配属学生 65 名が在籍しております。さらに、学部では 2 年次の分属で応用生物には 59 名が分属されました（応用自然科学科 1 年次では 224 人です）。

昨年度の教員による主な受賞としては、日本生物工学会にて福崎 英一郎が生物工学賞、山野範子先生が生物工学奨励賞（照井賞）を受賞されました。

教育の現場では、我が国の高等教育の国際競争力の強化および留学生等に魅力的な水準の教育等を提供するとともに、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材の養成を図ることを目的としてきました。本年 10 月から英語コースを改称して、「卓越した科学技術に立脚した産業バイオテクノロジー・グローバルリーダー育成プログラム」とし、産学連携をより強力にしたコースを開始します。さらに、昨年度同様、博士前期課程のダブルディグリープログラム (DPP) やタイへの短期留学などの制度も充実しております。

以上、昨年度から本年度にかけての動向をご紹介させていただきました。最後に、大学教育の現場では、特徴ある授業や研究活動を通して、国内外の学生の資質を伸ばすべく日々努力を行っており、今後も良き人材を輩出して行きます。同窓会の皆様におかれましては、前途ある後輩たちへ求人を含めた就職活動情報のご提供をお願い申しあげるとともに、今後も当教室の運営に多大なご支援を賜りますようお願いいたします。

## 各研究室近況報告

【生物資源工学領域】（福崎研）2025年度の福崎研は学部生6名、修士14名、博士16名とスタッフを合わせた合計50名のラボになりました。留学生は11名おり継続して国際的なラボになっています。また、福崎研の3本柱である、国際交流、産学連携、男女共同参画の一環として女性教授1名が本年度も引き続きクロスアポイントメント制度で在籍しています。2024年度に福崎英一郎教授は「生物工学分野におけるメタボロミクスに関わる先駆的研究」で第43回公益社団法人日本生物工学会生物工学賞を受賞いたしました。現在も続いている工学研究科テクノアリーナ最先端研究拠点である「福崎フロンティア産業バイオ連携拠点」の活動も活発に行われており、定期的にシンポジウムを開催し、これまで同様に食品に関する研究を行っています。お近くにお越しの際は、是非福崎研にお立ち寄りください。

【生命環境システム工学領域】（渡邊研）2025年度の渡邊研は学部生6名、修士1年6名、修士2年12名、博士4名と3名のスタッフ（加藤准教授、Adhitama助教）や招聘教授を合わせて合計32名のメンバーで研究を行っています。そのうち修士の1名と博士の2名は留学生で、Double Degree Program (DDP) の学生も1名参加しています。短期の受け入れとしては、カリフォルニア大学やチュラロンコン大学からの学生を受け入れています。私達の研究室のキーワードは生命と環境ですが、SDGsのこぼさを借りるまでもなく、地球環境問題や化学物質問題は喫緊の課題となっており、スイス、スペイン、英国やベルギーなどの研究グループとも連携して研究を進めています。これから更に重要性を増していく領域だと考えており、今後も積極的に研究を広げてまいりますので今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。

【高分子バイオテクノロジー領域】（内山研）2025年度の内山研は、鳥巢准教授、山口助教、特任教員・研究員、研究補佐、秘書、招へい研究員などのスタッフが34名、学生は、留学生や社会人学生も含め、博士後期19名、博士前期14名、学部生7名、研究生1名、の合計75名の研究室でスタートしています。研究対象は、バイオ医薬品、遺伝子治療用ウイルスベクター、食品です。ウイルスベクター製造はプラットフォームが完成し、培養、精製、分析、製剤、と一貫した研究が可能となり、病院との連携も進めています。食品物性研究でも新しい発見がありました。成果は継続して得られており、遺伝子治療関連の論文も高頻度で引用されるようになってきました。国内外での研究成果発表を活発に行っており国際的認知度も高まってきました。より一層の科学技術基盤の充実に努めつつ、大学発の科学技術を社会に確実に還元できるように更に頑張ります。

【細胞工学領域】（関研）2010年5月から2025年3月の約15年間に渡り細胞工学領域を主宰してこられた村中俊哉教授が定年退職されました。2025年5月24日に定年退職記念祝賀会を千里阪急ホテルで開催致しました。多数の研究室卒業生を含め、100名を超える参加者が集う盛大な祝賀会となりました。当日ご参加あるいは記念品事業にご協力を頂いた皆様大変ありがとうございました。村中俊哉教授の定年退職に伴い、2025年5月1日から、後継の関（せき）研究室がスタートしています。教授1名、スタッフ3名、学生19名からのスタートとなります。引き続き、植物

の代謝機能に着目したユニークな研究プロジェクトを進めていきます。近くにお越しの際は、ぜひ顔を見せに研究室にお立ち寄り下さい。

【生物プロセスシステム工学領域】(紀ノ岡研) 本領域は、2009年に始まり17年目を迎えました。本年6月末現在、教員3名(紀ノ岡、金、山本)、特任教員・研究員などで57名、学生35名と、大所帯かつ国際的な研究室となっており、新たな学問体系「細胞製造性」を軸とし、社会実装に向けた産官学連携にて活動しております。細胞製造コトづくり拠点の活動としても、6つの共同研究講座と連携して、細胞製造に関するコトづくりを邁進しております。

【生物化学工学領域】(大政研) 11年目は、大政教授、山野准教授、学部6、修士14、博士10、特任教員等とスタッフで5か国48名です。HPも充実しています(<https://biochemicalengineering.jp/>)。大政先生は、工学研究科長・工学部長・総長参与(経営協議会委員)として大学の運営全般に携わり、Asian Federation of Biotechnology (AFOB) 会長、JBA バイオエンジニアリング研究会 会長・理事、次世代バイオ医薬品製造技術研究組合(MAB) 組合理事・PLも務めています。AMED-国産細胞PJ(統括PL大政)、AMED-革新的な次世代抗体医薬品製造技術の開発(PI山野)、遺伝子治療製造PJ(PL大政)、NEDO、科研基盤A(大政)と研究PJも充実しています。今年度は日本動物細胞工学会(JAECT)国際大会を12月に大阪で開催(実行委員長は大政先生)します。近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さい。

【微生物機能工学領域】(青木研) 当領域は2023年4月に新たに設置され、設立3年目を迎えました。2025年度は、4回生6名、大学院生3名を迎え、また、小坂唯心助教が着任しました。その結果、スタッフ4名、博士後期2名、博士前期7名、4回生6名、研究員4名の総勢23名となりました。当研究室では、微生物学・合成生物学・オミックス科学の枠組みを拡張し、微生物が持つ極めて多様な機能を分析・再構成・応用することで、食を始めとしたさまざまな産業の課題を解決していきたいと考えています。次世代を担う人材の育成と、微生物を起点とした革新的バイオテクノロジーの創出に向けて努力して参りますので、今後とも皆様のご支援を賜れますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

【バイオ情報計測学講座】(松田研) バイオ情報計測学講座は2018年度から活動を開始し、2025年の3月には5期生が無事に卒業するなど、設立8年目を迎えて活動を本格化させています。現在は、教授:松田史生、准教授:岡橋伸幸の布陣で応生の学部教育を担当しております。2025年度は学部生5名を迎え、修士10名、博士3名、スタッフ8名の計25名(6月現在)でバイオテクノロジーを基盤に生物、計測、情報を融合した研究を活発に進めてまいります。応生出身、当研究室の第2期生の谷口起夫君は学位取得後この4月からひきつづき特任助教として研究室の発展に貢献してくれることとなりました。また、2025年5月には皆で「脱出ゲーム」というアクティビティに行って結束を固めるなど、今年度も一層仲良く、日々の研究を続けてまいります。

【代謝情報工学研究室】(清水研) 令和7年度は学部生5名、修士8名、博士3名、スタッフ8名

の合計 24 名の体制となり、情報科学を活用した代謝工学研究を精力的に推進しております。昨年度は、第 76 回日本生物工学会大会（2024）で森聖也さんが学生優秀発表賞、第 55 回化学工学会第 55 回秋季大会（2024）で三吉健太さんがバイオ部会優秀ポスター賞（上田奨励賞）、化学工学会第 90 年会（2025）にて、三吉健太さんが学生優秀賞、得能翔太さんが学生奨励賞を受賞しました。基盤 S、基盤 B、基盤 C、国際共同研究強化の科学研究費補助金の研究、JST、その他、様々な共同研究が進行中です。次世代を担う人材の育成とキラリと輝く代謝工学研究の発信に向け研究室一丸となり励んで参りますので、今後とも皆様からのご支援、ご鞭撻を賜ります様、何卒、よろしく願い申し上げます。

【応用微生物学領域】（藤山研）本年度、私たちの研究室は、学部 4 回生 6 名、修士課程 12 名、博士課程 12 名、技術補佐員 1 名、スタッフ 3 名の計 34 名で活動しています。今年も変わらず国際色豊かなメンバーが集い、日本人学生を含む 6 か国からの学生たちが、明るく和やかな雰囲気の中、力を合わせて研究に励んでいます。短期留学生の受け入れにも積極的に取り組んでおり、国際交流という私たちの大切なミッションに、日々、前向きに取り組んでいます。研究室での日々の様子やちょっとした出来事は、「藤山研通信」で随時発信していますので、ぜひ覗いてみてください。近くにお越しの際には、どうぞお気軽にラボにもお立ち寄りください。みなさまとお会いできることを、メンバー一同楽しみにしています。

【分子微生物学領域】（本田研）2025 年度の本田研究室は、本田教授、富田准教授に加え、11 名のスタッフ、22 名の大学院生、6 名の学部生でスタートしました（2025 年 4 月 1 日時点）。メンバーのうち 11 名は外国籍（タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン、マレーシア、モンゴル、中国）で、さらに短期留学生や外国人招へい教員も頻繁に訪れる、国際色豊かな研究室です。2024 年度には、当研究室の大学院生が生物工学専攻・博士前期課程の中間審査会で、日本語コースおよび英語コースの両方で最優秀賞を獲得しました。またこれとは別の学生が生物工学会や極限環境生物学会でも優秀発表賞を受賞するなど、大学院生の活躍が際立った 1 年となりました。2025 年 4 月からは本田教授が生物工学国際交流センター長に就任し、研究活動と国際交流が一層活性化しています。

【蛋白質結晶学研究室】（栗栖研）研究室の助教を務められた川本先生が 10 月 1 日付で准教授に昇進されました。11 月にはドイツ・ロストック大学から Anna Frank さんが、4 月に大阪市立大学出身の関莊一郎さんが JSPS の特別研究員 PD として加わりました。インドネシア・アイルランガ大学、タイ・VISTEC、ドイツ・ルール大学、ベルギー・リエージュ大学から順番に共同研究者が 2～6 ヶ月滞在し、研究室は大変賑やかになりました。5 年間研究室の秘書を務めてくださった富田里江さんが退職され、4 月から後任として小林宏美さんが着任しています。同じく 4 月に 3 名の新しい卒研究生が配属になり研究室の雰囲気も少しずつ変わってきています。5 月には新しい MicroED 用装置の導入も決まり、大阪大学からオリジナリティの高い研究を発信し続けていきたいと考えております。引き続きのご支援を宜しく願い申し上げます。

【麹菌育種工学寄附講座】当寄附講座は公益財団法人発酵研究所からの寄附講座助成により、2021年10月に発足しました。今年は4年目の運営となり、麹菌の株によるゲノム情報の多様性と共通性について実験データを蓄積しています。寄附講座教授：楠本（憲）、寄附講座講師：酒井、招へい教授：石田（月桂冠株式会社）、招へい准教授：眞岸（ヒガシマル醤油株式会社）、事務補佐員：楠本（由）の体制で研究を進めています。5月には酒井が学部学生実験を指導しました。寄附講座助成の田中は本年3月末で退職し、4月から産業技術総合研究所に着任しました。また、企業や大学、国立・公設研究機関との共同研究を実施中です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

【Global Food and Agri-tech Laboratory】(Sastia 研) As of FY2025, the Sastia Putri Laboratory consists of 10 members: 2 undergraduate students, 2 master's students, and 6 doctoral students. The lab maintains its international atmosphere, with 3 current enrolled international students and 3 additional students participating in a short-term exchange program from partner universities namely Institut Teknologi Bandung, Mahidol University and IPB University. Lab members are actively engaged in academic activities, including symposia and conferences, and a PhD student Mr. Rifqi Ahmad Riyanto was recognized with the SBJ Student Excellence Award 2024 for outstanding presentations.

In FY2025, Associate Professor Sastia Putri was invited as a keynote speaker at the 21st Annual Conference of the Metabolomics Society in Prague. The lab continues to strengthen its network through collaborations with research institutions, universities, and the Ministry of Health, and in April 2025, we proudly hosted a visit from the Vice Minister of Indonesia for Higher Education and Research Prof. Stella Christie.

2025年度現在、サスティア研究室は、学部生2名、修士課程学生2名、博士課程学生6名の合計10名で構成されています。国際色豊かな研究室として、3名の留学生在籍しており、さらに協定校からの短期交換留学生3名も受け入れています。学生たちは積極的にシンポジウムや学会などの学術活動に参加しており、2024年度には優れた研究発表により日本生物工学会の学生優秀賞学生優秀賞を受賞しました。2025年度には、サスティア准教授がチェコ・プラハで開催された第21回メタボロミクス学会年次大会にて基調講演者として招待されました。また、研究室はインドネシアの研究機関や大学、厚生労働省との連携を強化しており、2025年4月には、インドネシア高等教育・研究担当副大臣ステラ・クリスティー教授の訪問を受け入れました。お近くにお越しの際は、ぜひサスティア研究室にお立ち寄りください。

## 教員紹介：生物工学を支えるバイオ計測技術

微生物機能工学研究室 元根啓佑

2024年6月1日付で、微生物機能工学研究室（青木研究室）の助教に着任しました元根啓佑と申します。この度は、自己紹介および研究紹介の機会を頂き、感謝申し上げます。生物工学専攻の一員として、教育や研究に貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

私は学生時代、海洋生物資源の有効利用と保全に関する研究に取り組んできました。日本は世界第6位の排他的経済水域を有する海洋国家ですが、その豊富な海洋生物資源の多くが十分に活用されないまま眠っています。たとえば、日本近海に生育する大型藻類（海藻）は、生育速度が速く、陸地や肥料などを必要としないため、トウモロコシや木材などの陸上バイオマスに比べて環境負荷の低い次世代型バイオマスとして注目されています。しかし、食用のものを一部除き、有効利用は進んでいません。私の研究では、こうした未開拓の大型藻類に含まれる主要な多糖成分（アルギン酸やラミナリンなど）を単糖まで分解可能な酵母株を作製し、それを用いたバイオエタノール生産技術の開発を行いました。また、日本近海には世界有数のサンゴ礁が広がっていますが、近年は地球温暖化による海水温の上昇により、サンゴが白化して死滅する事例が頻繁に報告されています。サンゴ礁は、魚類をはじめとする多くの海洋生物にとって栄養源やすみかを提供する重要な生態系であり、その破壊は生物多様性の喪失につながる深刻な問題です。私の研究では、次世代シーケンサーなどの計測技術を駆使して、サンゴに高温および強光耐性を付与する共生細菌を発見しました。さらに、その細菌が強い抗酸化作用を持つカロテノイドを生産することで、サンゴを高温や強光などの環境ストレスから保護していることを報告しました。このように、学生時代は海洋生物資源の有効利用と保全の両面から研究を推進してきました。

学位取得後はバイオ計測技術の開発に興味に移り、米国シアトルにあるワシントン大学（University of Washington）にて約4年間、ポスドク研究員としてタンパク質シーケンシング技術の研究開発に取り組みました。次世代シーケンサーの登場により、DNAやRNAの塩基配列の解読は格段に容易になりましたが、タンパク質のアミノ酸配列の解読はいまだに技術的に大きな課題として残されています。私の研究では、タンパク質がナノメートルサイズの微細な孔（ナノポア）を通過する際に生じる、配列依存的なイオン電流の変化を測定する「ナノポアセンシング」と呼ばれる分析手法を用いて、タンパク質の配列情報および翻訳後修飾の情報を取得する技術の開発を行いました。今後もこのようなバイオ計測技術の開発を軸に、生命現象の理解や、それに基づく新たなバイオテクノロジーの創出に挑戦していきたいと考えています。また、教育・研究活動を通じて、次世代を担う生物工学者の育成にも力を注いでまいります。



## 近況報告：筑波山と牛久大仏を眺めながらの動植物ハイブリッド細胞研究

東京大学教授 松永幸大（旧教員）

阪大工学部応用生物学科で2002年11月から2011年3月まで講師・准教授を務めました松永幸大です。現在、東京大学柏キャンパスの生命棟7階から眺める筑波山と牛久大仏に毎朝頭を下げながら、研究と教育に邁進しています。

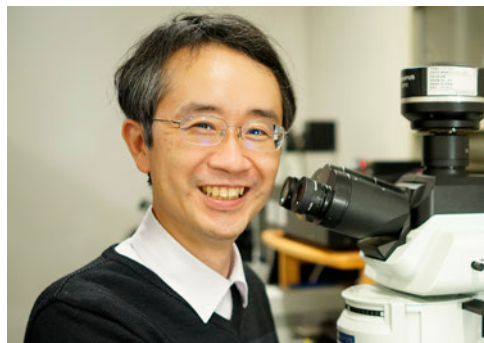
私の研究室はスタッフと学生を合わせて40人以上が在籍する大所帯で、日々刺激的な出来事が絶えません。メンバーは日本人が中心ですが、アメリカ、フランス、ロシア、バングラデシュ、中国出身の研究者も加わり、国際色豊かな研究環境です。研究室の使用言語は日本語と英語のチャンポン状態ですが、阪大時代に東南アジアからの留学生たちを指導した経験が非常に役立っています。

最近、合成生物学に情熱を注いでおり、動物と植物のハイブリッド細胞「プラニマル(Planimal)」の創製を目指したプロジェクトを推進しています。昨年、その第一弾として、原始紅藻類シズン由来の葉緑体をチャイニーズハムスター卵巣細胞(CHO細胞)に移植し、動物細胞で光合成を起動させることに世界で初めて成功しました。この成果は国際的な反響を呼び、アメリカのNewsweek誌で紹介されたほか、ハンガリーの女子学生やスイスのバイオベンチャー社長から感動の声が寄せられるなど、研究者として大変光栄な経験を得ることができました。現在、第二弾の成果発表を準備中ですので、どうぞご期待ください。

今年4月には、植物の生存戦略を支えるクロマチン制御機構に関する研究成果が評価され、文部科学大臣表彰・科学技術賞(研究部門)をいただきました。その際、複数の研究者から「基礎研究者かと思いきや、プラニマル細胞のような挑戦的な研究も手掛けている」と驚き交じりの評価をいただきました。その度に、「阪大工学部応用生物学科で過ごした9年間の経験が大きな財産になっています」と答えています。基礎研究者であった私を温かく迎え入れ、生物工学分野の経験を深めさせてくださった阪大の皆様には、今でも心から感謝しています。

今年2月には、12年ぶりに吹田キャンパスを訪問し、GSE コモンイーストに立ち寄りました。阪大時代に同僚だった内山進教授に研究室をご案内いただいたのですが、見事に改装され、最新設備が所狭しと並ぶ中、多くの学生や研究者たちが活気ある研究活動に取り組む姿を目の当たりにし、大いに感激しました。

現在も産学連携の場で、阪大・応生の卒業生から声をかけていただくことがよくあります。関東での共同研究や産学連携をご検討中の方、同僚や部下で博士号取得を考えている方、特に尚醸会の関係者の皆様、何かお力になれることがあれば、ぜひお気軽にご連絡ください(連絡先は東大のHPや発表論文に記載されています)。



## 近況報告：機械工学者の参画と奮闘の思い出

中央大学理工学部精密機械工学科 鈴木宏明（旧教員）

私は、2007年の9月から2013年3月までの5年半、四方哲也教授（当時）が主宰されていたバイオ情報工学専攻・共生情報工学講座にて准教授として勤めました。自己紹介として、その前後の経歴を述べます。私は、東京大学の機械工学専攻において、流体工学の研究室（笠木伸英先生）に所属して2003年に博士の学位を取得しました。その後、東京大学生産技術研究所で当時研究室を立ち上げたばかりの竹内昌治先生の研究室において、2007年まで助教として勤めました。竹内研究室は、バイオハイブリッドシステム研究室という呼称を掲げており、マイクロ工学とバイオ（細胞や生体組織）を融合させた研究をしています。当時、構成的生物学（いまは、世界的には合成生物学と呼ばれることの方が多いですね）の組織を勃興しようという流れがあり、四方教授や竹内准教授（当時）がその初期メンバーとして会合を重ねる中で、私は構成的生物学を知るとともに、マイクロ工学の技術が期待されていることを知りました。その頃に、ちょうど四方研究室での准教授の公募があり、助教からのステップアップポストを探す中で応募したところ、予想に反してトントン拍子で採用されました。完全に異分野（機械工学）からの異例の人事でありましたが、分野ミックスを期待して採用していただいたと認識しております。大阪大学での勤務のあとは、2013年の4月から、中央大学理工学部の精密機械工学科に准教授として採用されて独立研究室を主宰する立場となり、2016年から教授に昇格し、現在に至ります。

さて、ここからは、生物工学専攻および四方研究室の思い出を述べます。当時、金子邦彦先生のERATOの終了後に四方哲也先生のERATOが開始され、多くの研究者が集まってプロジェクトを進めました。特に、世代が近い松浦友亮先生（現東京科学大学）、市橋伯一先生（現東京大学）、そして細田一史先生（現情報通信研究機構）とは、日常的に喧々譁々の議論をかわし、分子生物学の素養をほとんど持っていなかった私にとって、大きな糧となりました（いまでも、研究プロジェクトや共同研究で交流が続いております）。充実した設備、優秀なポストドクの方々、学生の方々にも囲まれ、多くの論文を発表することができました。また、私の在籍時に、C2棟から新しく建てられた情報工学専攻のビルに引っ越しをしたことも記憶に残っています。同じバイオ情報工学専攻で関連が深かった清水浩先生や古澤力先生にも深くお世話になり、その縁から、2019年から5年間、清水先生の研究プロジェクトにも参画させていただきました。生物工学専攻に着任して最も驚いたのは、年度末に行われた謝恩会です。生協の食堂を借り切って、ステージを設置し、研究室ごとにコントやダンス、はたまた、どの教授がイケているか街頭インタビューをした結果を面白おかしく発表したり。学生たちは、卒業論文や修士論文の研究の中、このイベントに向けて、一致団結して一生懸命企画を考えたり練習したりしていました。この伝統は、いまはどうなっているのでしょうか。懐かしい思い出です。

現職での私の研究室は、「ナノバイオモデリング研究室」と呼称しており、引き続きマイクロシステムとバイオの融合研究を行っています。機械系の学科に所属しているため、研究の基軸は、工学・ものづくりにおいており、共同研究を通じて次世代のバイオテクノロジーの発展の基礎となるような技術開発に取り組んでおります。お時間があるときにホームページをご覧ください（<https://nanobio.r.chuo-u.ac.jp/>）、共同研究などの可能性があればお気軽にご連絡いただけますと幸いです。

## 令和6年度尚醸賞の授与

工学部応用生物工学コースの成績優秀者の努力を讃え、2025年3月25日にサントリーメモリアルホールにて、尚醸会を代表して会長の関先生より尚醸賞が授与されました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を期待しています。

### 尚醸賞受賞者のコメント

嶋吉 琴葉さん

このたびは尚醸賞を賜り、誠に光栄に存じます。私が大学4年間、勉学に励むことができたのは、自分一人の力ではなく、熱心にご指導くださった先生方、相談に親身に乘ってくださった先輩方、共に切磋琢磨した同期の友人たち、そして勉学に集中できる環境を整えてくれた家族のおかげです。今後もこの栄えある賞に恥じぬよう、より一層精進してまいります。

杉谷 篤紀さん

この度は尚醸賞という大変名誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。共に研鑽を積んだ学友や温かくご指導いただいた先生方、日々の生活を支えてくれた家族など多くの方々のおかげでここまで勉学に励むことができました。この場を借りて心より御礼申し上げます。この名誉に恥じぬよう、感謝の心を忘れることなく今後より一層精進してまいります。

山崎 真奈さん

この度は尚醸賞を賜り、誠に光栄に存じます。先生方や先輩方、そして家族に支えられながら仲間と切磋琢磨し、学びを深めることができました。このような形で努力を評価していただき、大変光栄であると共に、身が引き締まる思いです。この受賞を励みに、今後も周囲の方々への感謝の気持ちを忘れることなく、より一層精進してまいります。



左から山崎 真奈さん、嶋吉 琴葉さん、関 達治会長、杉谷 篤紀さん

## 令和6年度楠本賞、工学賞を受賞して

大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻

大政研究室 博士前期課程1年

嶋吉琴葉（令和7年卒）

この度、私は応用生物工学コースの代表として令和6年度大阪大学工学賞を、そして応用自然科学科の代表として楠本賞を頂きました。身に余る光栄でございます。このような名誉に恥じないように、これからも日々研鑽を怠らず精進していく所存でございます。

このような名誉ある賞を頂いたのも、講義において物理学、化学および生物工学を常に熱心にご指導いただいた大阪大学の先生方、研究室において研究に対する考え方、方針をご指導いただいた大政教授、山野准教授、金井助教授、相談に親身に乘ってくださった諸先輩方、そして共に切磋琢磨した友人たち、経済面だけでなく、精神面ともに私の学生生活を支えてくださった家族のおかげでございます。この場をお借りして感謝申し上げます。

私は現在、大政教授の温かいご指導の下、細胞周期制御が組換えアデノ随伴ウイルス（AAV）ベクターの生産性に及ぼす影響の研究を行っております。AAVベクターは遺伝子治療で使われるウイルスベクターであり、世界市場は2034年まで年平均23%の成長が見込まれるなど今後も需要の拡大が予測されています。しかし一方で生産コストが非常に高く、治療を必要とする患者さんのもとに十分に行き渡っていないのが現状です。そこで私は、細胞周期と生産用プラスミドの核内移行のタイミングに着目し、プラスミド導入直前にAAV生産用細胞を分裂期に揃えることで導入効率を向上させ、AAVの生産性を高めることを目標としています。日々の研究では仮説通りの結果が得られることが少なく、先行研究と照らし合わせながら、なぜ仮説と異なったのかを考え続けています。その過程で行き詰まることも少なくありませんが、大政教授をはじめとした研究室の先生方、諸先輩方、同期の方々との実りのある議論を通じて自分では見落としていた視点や新たな着眼点を得ることができ、研究のブラッシュアップに繋がっています。今後も日々の研究活動を通じて、社会に貢献できる成果を生み出すことを目指すとともに、自分自身も成長していけるよう努力してまいります。

将来は、バイオプロセスを改良することでバイオ医薬品の生産性を向上させ、社会に貢献したいと考えています。バイオ医薬品は低分子医薬品では治療が困難な疾患に対して新たな選択肢を提供できる点で優れていますが、高コストゆえに必要とする人に届きにくいという課題を抱えています。この課題に対して製造効率に大きな影響を与える上流プロセスを最適化することで、より多くの患者さんが必要な治療を受けられる社会の実現に貢献したいと考えております。最後に、大阪大学工学部応用自然科学科バイオテクノロジーコースの卒業生として恥じぬよう、今後も研鑽を重ねてまいります。

## 令和6年度 尚醸会バイオテクノロジーセミナー報告

庶務幹事 岡橋 伸幸（平成24年卒）

令和6年11月9日（土）に、尚醸会総会およびバイオテクノロジーセミナーが開催されました。今年度も大阪大学吹田キャンパス・サントリーメモリアルホールでの対面と、Web配信を併用したハイブリッド形式での開催となり、合計65名の同窓生、在校生が集いました。

総会では例年通り、関達治（S42卒）会長の挨拶、福崎英一郎（S58卒）幹事長の事業報告、渡邊肇（現教員）生物工学コース長の同コース現状報告、酒井香奈江（H15卒）会計幹事からの報告、片倉啓雄（S57卒）監査役の会計監査承認が行われました。

バイオテクノロジーセミナーでは、片岡正和准教授（信州大学、H6年博士課程修了）から「Be Free!: 研究を支える縁」、古園さおり准教授（東京大学、H8年博士課程修了）から「微生物代謝における翻訳後制御+ $\alpha$ 」と題して、近況報告、当時の思い出話、最新の研究成果など多彩な話題をお話いただきました。

セミナー後、大学構内のKitchen BISYOKUへと移動し、交流会が開催され、歓談のひと時を過ごしました。来年度もみなさまのご参加をお待ちしております。



片岡正和 准教授



古園さおり 准教授



集合写真

## 令和6年度尚醸会企画OB・OG懇談会開催報告

生物工学 新聞秀一（現教員）

### 【イベント名】

令和6年度尚醸会OB・OG交流会

### 【開催日時】

2024年9月27日（金）17:00~21:00

### 【会場】

大阪大学吹田キャンパス生物工学国際交流センターβ棟3Fセミナー室

### 【参加者内訳】

企業幹事3名と教員3名を含むドクターからB3まで34名

### 【懇親会会費】

3000円（OB・OGは招待としました）

### 【次第】

開会の挨拶（企画幹事：新聞秀一）

OB・OG講演

1. 角倉早紀（江崎グリコ株式会社）
2. 中島慎太郎（武田薬品工業株式会社・企業幹事）
3. 新聞秀一（現教員）

企業勤務者による学生時代の研究生生活と現在のキャリア（仕事内容）の紹介と現教員よりアカデミア発ベンチャー企業に関する話題を紹介いただきました。

質疑応答

懇親会（18:30~21:00）

### 【講演内容概要】

令和6年度のOB・OG懇談会も、令和5年度に引き続きハイブリッド形式の講演会と対面での懇親会を開催しました。

現在民間企業に勤めているOB・OGからは、学生時代の過ごし方や企業における仕事の内容ならびに現在のワークライフバランスなどが紹介されました。特に転職も経験した江崎グリコ株式会社の角倉さんからは、「1児の母の転職」についてどのようなことを重視し転職活動を行ってきたのかという体験談が語られました。数多くの学生が参加しておりましたが、やはり企業における「ワークライフバランス」は非常に興味がある内容だったと考えられます。また、現教員である新聞（筆者）からは、大学の成果を社会に還元するために立ち上げたベンチャー企業について、会社を運営するにあたりどのような点に難しさがあるのかについて紹介いたしました。令和6年度は参加者にアンケートを実施しましたので、以下にアンケート結果の一部を紹介します。

### 【アンケート結果の抜粋（今回のイベントで最も印象に残った点は何ですか？）】

- ・ 社会人おふたりのキャリアについて詳しく知れたこと。
- ・ 新聞先生の起業の話。
- ・ グリコの角倉さんのお話。
- ・ 食品企業の商品開発で、お母さんをされている角倉さんのお話が全体的に興味深かった。
- ・ 講演会のお話がとても今後の参考になりました。
- ・ 会社を経営するときにキャッシュが手元にしっかり残っているかどうか重要であるということ。
- ・ 現役で食品や製薬会社で働かれている方から仕事の内容や就活のことなど聞けて貴重な機会になりました。
- ・ 生物工学専攻を卒業された先輩方が実際にどのように活躍されているのかというのを具体的に知ることができた点です。
- ・ 他ラボや3年生と交流できて楽しかったです。
- ・ 食品メーカーに興味があるので角倉さんのお話がとても印象に残りました。あと先生方とお話ししながら美味しい焼酎・日本酒を飲ませていただいたことです。
- ・ グリコの角倉さんのお話（現段階で自分が1番楽しそうだと思っていることとお話して下さったため）。

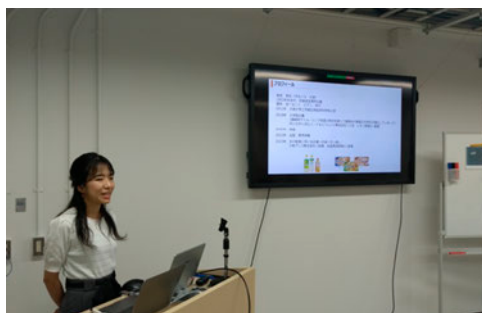
### 【懇親会の様子】

休憩を挟んで行われた懇親会では、OB・OG・現役学生の垣根を越えて、和やかな雰囲気の中で懇談が行われました。食事を交えながら、進路選択に関する相談や先輩方からの生き生きとした体験談など、非常に有意義な交流が行われました。

### 【総評】

当初の目的通り、OB・OGと現役学生の相互理解を深め、進路選択の一助とすることができたと考えています。懇親会中も終始活発な意見交換が行われ、大変有意義なイベントになりました。参加者一同、実り多い一日となりました。

ご多用中にもかかわらず、ご参加くださった教員、現役学生、OB・OGの皆様へ深く感謝申し上げます。今後も定期的に交流の場を設けてまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



尚醸会 OB・OG 交流会のスナップショット

## 令和6年度2年生重要事項説明会開催報告

令和6年度2年生クラス担任  
大政 健史（昭和61年卒）・山野 範子（現教員）

下記の日程において、尚醸会からの補助と、生物工学専攻の基幹・協力講座の教授の先生方からのご厚志をいただき、開催しました。各研究室からも2-3名の在籍している学生さんにも参加して頂き、2年生と上級生、教員との交流も含めて、多くの学生さんのご協力があり、おかげさまで、大変盛況な会となりました。どうもありがとうございました。



懇親会でのご挨拶



懇親会開催の様子

---

令和6年度 バイオテクノロジーコース2年生重要事項説明会

日時：令和5年9月27日 金曜日 13:15から

場所：サントリーメモリアルホール（成績表配布・講演会）

### プログラム

13:15 資料配布と説明

<第一部 講演会> サントリー記念館（C3棟）5階 メモリアルホール

13:30 開会挨拶（大政健史・クラス担任）

13:35 講演

松寄日南（応用自然 R2卒 生物工学専攻 R4 修士修了 塩野義製薬）

高木康弘（応用自然 H19卒 生命先端工学専攻 H21 修士修了 アステラス製薬）

14:10 尚醸会について（関達治・大阪大学名誉教授・同窓会会長）

14:25 写真撮影

14:30 会場移動

14:50

<第二部 懇親会> 生協食堂（ファミリー）第二ホール

15:00 懇親会（福岡英一郎・大阪大学教授・同窓会幹事長乾杯発声）

上級生を交えての軽食

16:15 閉会挨拶（渡邊肇・コース長）

---

## 令和6年度 Short-stay Short-visit (SSSV) プログラム参加学生へのご支援に対する御礼とご報告（とお願い）

生物工学国際交流センター  
本田孝祐（現教員）

生物工学専攻の協力部局である生物工学国際交流センターでは2011年度より、日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度を利用した交換留学プログラムである Short-stay Short-visit (SSSV) プログラムを実施しています。このうち、送り出しプログラムでは、生物工学専攻の大学院生を、タイのトップ大学4校（マヒドン大学、チュラロンコン大学、カセサート大学、モンクット王工科大学トンプリ校（KMUTT））に派遣し、約5週間の在外研究に取り組んでいただいております。派遣先であるタイの研究室の主宰者には、本専攻やその前身となる学科・専攻で学ばれた元留学生も多く、SSSVはこうした先生方の協力のもと成立しております。2024年度は、藤山研5名、本田研3名、福崎研5名、内山研4名、大政研1名、渡邊研4名、村中研2名の24名がプログラムに参加し、配属先大学での在外研究のほか、タイ語・タイ文化に関するオリエンテーション、在タイ日本大使館やタイ味の素アユタヤ工場の見学など様々なアクティビティに取り組みました。

コロナ禍による中断はありながらも、これまでに生物工学専攻（生命先端工学専攻・生物工学コースを含む）から250名近い大学院生がSSSVプログラムに参加しており、本専攻の名物プログラムとなっております（<https://www.icb.osaka-u.ac.jp/on-going-2/>）。

しかし、コロナ禍後は、国際線の減便と円安によるフライト代の高騰、また感染症防止のための宿泊施設の確保やより充実した海外旅行保険への加入が求められており、参加学生の経済的負担が大きくなってまいりました。こうした背景のもと、2023年度には尚醸会から総額360,000円のご支援を賜っております。2023年度のプログラムでは、実施期間中、8割ほどの学生が、新型コロナウイルスあるいはインフルエンザに感染するという非常事態に見舞われましたが、尚醸会のご支援のもと充実した内容の保険に加入していたことにより、無事にプログラムを完遂することができました。かかる状況から2024年度のプログラムでも408,000円のご支援を賜りましたことをご報告申し上げます。2024年度のプログラムでも若干名が風邪や腹痛の症状を訴えることがありま



2024年度SSSVプログラムの様子（最終成果報告会後の集合写真）

したが、保険加入により金銭的な不安をかかえることなく病院で診察を受けることができました。この結果、いずれの学生も大事に至ることなくプロジェクトを完遂し、無事に帰国することができました。プログラム参加学生には、昨年 11 月の尚醸会バイオテクノロジーセミナー交流会にも参加いただき、皆様に直接感謝の言葉を述べていただいたところですが、改めましてこのたびの尚醸会からのご支援に厚く御礼を申し上げます。本稿のおわりに 2024 年度 SSSV プログラムに参加した学生の手記を掲載いたします。

最後に、これまでに SSSV プログラムに参加された卒業生の皆様にお願ひです。生物工学国際交流センターでは、2014 年度より「バイオテクノロジー教育促進事業」を立ち上げ、SSSV プログラムをはじめとした学生支援活動のさらなる充実に努めています (<https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/project/icb>)。在学中、SSSV プログラムを通じて皆様が得た体験や思い出を、より多くの後輩たちにも経験していただくべく本事業へも暖かいご支援を賜れますようお願い申し上げます。

以下に、令和6年度 SSSV プログラムに参加した学生の手記を掲載します。

①藤山研 奥山 元貴 チュラロンコン大学

研究活動や文化体験を通じて、貴重な学びや大切な出会いを得ることができました。タイの方の優しさに何度も助けられたことは、忘れられない経験です。大学生活の中でこのような体験ができたことは、今後の人生の糧になると思います。

②内山研 牧平 遥香 チュラロンコン大学

タイ留学を通じて語学力が向上し、コミュニケーションに対する積極性も高まりました。また、タイの人々の温かさに触れ、私自身も周囲に対して同じように接していきたいと感じました。

③渡邊研 永井 悠介 チュラロンコン大学

現地の学生との交流を通じて、英語力の向上を実感するとともに、異文化の中で意見を交わす楽しさも味わいました。また、研究面では、これまで触れる機会のなかった分野に挑戦することで新たな知見を得るとともに、海外での研究がもたらす学びや発見の面白さを強く感じ、今後の研究活動への意欲が一層高まりました。

④福崎研 竹野 友香 チュラロンコン大学

SSSV に際し、多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。この留学を通じて、タイの方々の温かさを感じ、タイ文化の素晴らしさに触れることができました。また、約1ヶ月にわたり異国の研究室で研究を行うという貴重な経験を積み、英語学習へのモチベーションが一層高まりました。

⑤福崎研 篠田 寛子 チュラロンコン大学

私はプログラミングを用いて、タイ北東部の米とキャッサバにおける農業用水の微生物解析を行った。これまで行ってきた解析法とは違い、一歩ずつ段階を踏むことで、微生物解析に必要な操作の理解が深まった。

⑥福崎研 山内 圭佑 チュラロンコン大学

まずは、ご支援いただき感謝申し上げます。本研修を通じて、異なる分野の研究や文化に触れることで、自分との違いを理解し、新たな視点をすることができました。また、留学生の立場になったことで、多くのことを考えさせられる機会がありました。

⑦福崎研 吉山 友梨 チュラロンコン大学

タイでの一ヶ月間は研究においてもそれ以外の活動においても新しい経験の連続でした。何より、タイ人の優しさに感動しました。あの一ヶ月で自分の世界が広がったような気がしています。この経験をこれから活かしていきたいです。

⑧村中研 小座間 遼介 カセサート大学

OB・OGの皆様、この度は多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。カセサート大学での植物内生放線菌に関わる研究を通じて、生物学の造詣をより深めることができました。また、タイでの生活の中で、これまでの自分にはなかった行動力を発見し、新たな一面に出会うことができました。

⑨大政研 野間 あかり カセサート大学

1ヵ月という短い期間でしたが、タイの研究室で今まで触れたことのなかった分野の研究に携わることができ、今後の研究生活における大きな糧となりました。また現地の学生との交流は非常に楽しく、日本文化とタイ文化の魅力を再発見する貴重な経験となりました。ご支援ありがとうございました。

⑩福崎研 戸上 清佳 カセサート大学

この度はご支援を頂きありがとうございました。本プログラムを通じ、タイの人々の優しさ、食文化の違いや共通点など、現地に行かなければ感じられない貴重な学びが多くありました。より広い視野で物事を考えるきっかけになったと感じています。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

⑪村中研 岡本 有平 カセサート大学

ご支援ありがとうございました。英語を話すハードルが下がったことや、ドライな解析に初めて触れたことなど、非常に有意義な研修となりました。また、技術の向上だけでなく、宗教を信じている人の考えなど、新たな考え方を学ぶことができました。

⑫内山研 山口 天音 カセサート大学

本研修において、研究分野での新たな視点や知識を得ることができただけでなく、異文化に触れることで、普段の生活では得られないとても貴重な経験や学びがありました。この経験を活かし、更に自分を成長させていきたいです。

⑬渡邊研 登 琳菜 カセサート大学

異文化や現地の風土に触れ、研究活動では普段と異なるテーマに取り組むことで視野を広げることができました。これらの経験から新たな視点やアイデアを得ることができ、今後の研究やキャリアに活かしていきたいと考えています。

⑭渡邊研 柳原圭佑 キングモンクット王工科大学トンブリ校

タイでの滞在を通じて、日本では味わえない文化や食体験や現地の方々との交流を経験することができました。また、普段の研究室活動とは異なる研究にも取り組み、人生の財産となる経験となりました。この経験を糧に、今後の研究や勉学にさらに励んでまいります。

⑮本田研 高藤 優希 キングモンクット王工科大学トンブリ校

SSSVプログラムを通じて、現地の方々との交流や文化、生活習慣に深く触れ、通常の観光では経験できない貴重な機会を得ました。また、日本文化や自己について客観的に考える機会となり、大変勉強になりました。

⑯藤山研 川上 泰生 キングモンクット王工科大学トンブリ校

この度はご支援いただきありがとうございました。長期間異国の地で生活し現地の方々と交流したことによって、これまで感じることのなかった価値観や文化を知ることができ、大変貴重な体験となりました。

⑰藤山研 杉島 匠 キングモンクット王工科大学トンブリ校

私は、現地で困った際に助けてくれたタイの人々の優しさに触れ、自身の留学生への意識が変わりました。帰国後もこの経験から、積極的に留学生と食事やコミュニケーションを取るようになり、異文化に対する関心がより高まりました。

⑱藤山研 増井 隆人 マヒドン大学

私の価値観が大きく変わる経験でした。約1か月間、タイのラボメートと過ごし、環境や人柄、文化の違いを肌で感じることができ、これまでの常識が当たり前でないことに気がつきました。貴重な経験をさせて頂き、有難うございました

⑲本田研 矢野 絢音 マヒドン大学

SSSVプログラムへのご支援ありがとうございました。タイの人々との交流を通し、自分が持つ日本的な価値観に気づき、価値観の多様性を学ぶことができました。この経験を活かし、広い視野を持ち新たなことに挑戦し続けたいです。

⑳本田研 矢中 万緑 マヒドン大学

研究活動に加え、現地の学生との交流を通して異文化理解を深めることができ、非常に有意義な一か月を過ごしました。このプログラムを通じて身に着けた新たな研究視点や価値観を、今後の研究活動や生活に活かしたいと思います。この度はご支援をいただき誠にありがとうございました。

㉑藤山研 村上 直也 マヒドン大学

総じて非常に濃い37日間で、生涯忘れることのない経験になりました。言語の壁を感じながら試行錯誤した研究活動や文化の違いを感じる日々の生活はとても刺激的で成長できる環境でした。この活動をご支援いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

㉒内山研 小西 萌絵 マヒドン大学

今回の留学を通じて、バイオテクノロジーに関する知識を深めることができ、また、異文化に触れることで視野を大きく広げることができました。この貴重な経験を糧に、今後も一層勉学に励ん

でまいります。ご支援いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

②③内山研 鳥井 奈津実 マヒドン大学

この度は SSSV へのご支援をいただきありがとうございました。タイの先生方や学生の皆さんとの研究を通して、多角的な視点を身につけるとともに、グローバルな協働力を培うことができました。この経験を今後の研究活動に活かしたいと思います。

②④渡邊研 菊池 翔太 マヒドン大学

私はプリンターから発生する空気汚染物質を定量する実験を行いました。現地の教授陣および大学院生の協力を得て、実験計画の立案からデータ収集、分析までを進めることができました。日々のディスカッションや実験に関するアドバイスを通じて多くの知見を得ることもできました。

令和6年度 同窓会会計

	用途	金額	
収入	令和5年度より繰越金	2,807,142 円	
	令和6年度会費	232,652 円	
	令和6年度会費	297,400 円	
	バイオテクノロジーセミナー会費	147,000 円	
	受取利子	247 円	
	合計	3,484,441 円	
支出	尚醸会印鑑作成費	2,280 円	
	名簿データ整理委託費	66,000 円	
	会報、チラシ、発送費	213,400 円	
	会報持込発送費	277,509 円	
	二年生重要事項説明会懇親会	50,000 円	
	OB・OG懇談会補助費	30,000 円	
	バイオテクノロジーセミナー旅費	80,000 円	
	バイオテクノロジーセミナー懇親会	200,220 円	
	尚醸賞賞状・楯作成費	18,018 円	
	ゆうちょ Biz 利用料	13,200 円	
	利用料 (ゆうちょ銀行)	12,827 円	
		合計	963,454 円
	収支	(令和7年度への繰越金)	2,520,987 円

令和6年度 学生国際活動支援金会計

	用途	金額
収入	令和5年度より繰越金	3,079,103 円
	受取利子	407 円
	合計	3,079,510 円
支出	SSSV フィールドスタディへの支援金	408,000 円
	手数料	550 円
	合計	408,550 円
収支	(令和7年度への繰越金)	2,670,960 円

## 証明書

令和六年度大阪大学工学部醸造醗酵応用生物工学科同窓会（尚醸会）の会計資料（収入・支出内訳、領収書、預金通帳）および、学生国際活動支援基金の会計資料（収入・支出内訳、領収書、預金通帳）を監査したところ、正当妥当であることを証明します。

令和七年 五月 二十六日

大阪大学工学部醸造醗酵応用生物工学科同窓会（尚醸会）  
会計監査人

**Web版のため印章部分を削除しました。**

## 証明書

令和六年度大阪大学工学部醸造醗酵応用生物工学科同窓会（尚醸会）の会計資料（収入・支出内訳、領収書、預金通帳）および、学生国際活動支援基金の会計資料（収入・支出内訳、領収書、預金通帳）を監査したところ、正当妥当であることを証明します。

令和七年 九月 五日

大阪大学工学部醸造醗酵応用生物工学科同窓会（尚醸会）  
会計監査人

**Web版のため印章部分を削除しました。**

## 大阪大学工学部 醸造・醱酵・応用生物工学科同窓会「尚醸会」会則

### 1. (名称)

本会は「尚醸会」と称する。但し、本会の預金口座名は「醸造・醱酵・応用生物工学科同窓会」として取り扱うものとする。

### 2. (会員の構成)

本会は次の会員で構成する。

#### (1) 正会員

イ 大阪大学工学部、同大学大学院工学研究科ならびにその前身である学校の醱酵・生物工学系の前身学科、専攻の卒業生。

ロ 上記イの教室および付則に示す関連講座の旧教官・教員、現教員および現職員。

ハ 上記イの教室および付則に示す関連講座に関係のあるもの（旧職員、研究生、実習生など）で、入会を希望し会長が承認したもの。

#### (2) 名誉会員

会員の中から第6条に定める役員会の推薦により総会の承認を得たもの。

#### (3) 賛助会員

本会の趣旨に賛同し、付則に定める会費を納めるもので幹事会の推薦により総会の承認を得たもの。

#### (4) 学生会員

大阪大学工学部応用自然科学科バイオテクノロジーコースおよび同大学院工学研究科生物工学専攻生物工学コースに所属する学生。

### 3. (目的)

本会は会員相互の親睦を図り教室の発展に寄与することを目的とする。

### 4. (所在地)

本会の所在地は大阪府吹田市山田丘2番1号 大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻内とし、会員の希望により支部を設けることができる。

### 5. (役員)

本会には次の役員を置く。

- |         |     |                        |
|---------|-----|------------------------|
| (1) 会長  | 1名  | 正会員の中から総会で選出する。        |
| (2) 副会長 | 2名  | 正会員の中から会長が推薦し、総会で承認する。 |
| (3) 幹事長 | 1名  | 正会員の中から会長が委嘱する。        |
| (4) 幹事  | 若干名 | 正会員の中から会長が委嘱する。        |
| (5) 監査  | 2名  | 正会員の中から総会で選出する。        |

### 6. (役員の仕事)

本会役員は、役員会を構成し、本会の運営を図る。役員の仕事は次のとおりである。

- (1) 会長は本会を総理する。
- (2) 副会長は会長を補佐する。
- (3) 幹事長は幹事を総括して会務を掌理する。

- (4) 幹事は庶務、財務、企画、編集の事務を行う。
- (5) 監査は本会の運営と会計を監査し、総会に報告する。
7. (役員の任期)  
役員の任期は2年とし再任を妨げない。
8. (名誉会長)
  - (1) 本会に、名誉会長をおくことができる。
  - (2) 名誉会長は役員会が推薦し、総会の承認を得て委嘱する。
9. (会議)
  - (1) 本会は原則として2年に1回総会を開き、役員の改選、会計報告、会則の改正、その他重要な事項を議する。
  - (2) 総会の議決には出席正会員の過半数の賛成を必要とする。
10. (会計)
  - (1) 本会運営の経費は会費およびその他の収入を持ってあてる。
  - (2) 会費は付則に定める金額とする。
  - (3) 名誉会員および学生会員からは徴収しない。また、卒業後50年以上の会員は会費を免除する。
  - (4) 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
11. (会則の変更)  
本会の会則は総会において出席正会員の三分の二以上の賛成を得て改正することができる。ただし、書面を持って賛否を表す場合は出席とみなす。

#### 付則

1. 本会の設立日は平成8年11月15日である。
2. 生物工学系とは、大阪大学工学部応用自然科学科バイオテクノロジーコースおよび同大学院工学研究科生物工学専攻生物工学コースならびに、それらの前身とする。関連講座については、適宜役員会で協議の上、定義する。
3. 本則第9条の会費は次のとおりとする。  
会費 正会員は年額2,000円、賛助会員は年額1口 5,000円。
4. 本則第4条の規定に従い、本会に関東支部を置く。
5. 付則の変更は役員会の議をもって行う。
6. 本会則は平成8年11月15日から施行する。

令和3年11月13日改訂

☆同窓会現組織（令和7年度）

会長	関 達治（昭和42年卒）	
副会長	原島 俊（昭和47年卒）、新城雅子（昭和52年卒）、根来誠司（昭和52年卒）	
幹事長	藤山和仁（昭和59年卒）	
幹事		
（企業幹事）	玉田佳大（平成22年卒）	白鶴酒造（株）
	大橋博之（平成25年卒）	（地独）大阪産業技術研究所
	谷口百優（平成27年卒）	（株）島津製作所
	中島慎太郎（令和2年卒）	武田薬品（株）
（庶務担当）	梶浦 裕之（平成15年卒）、岡橋伸幸（平成24年卒）、 安本周平（平成24年卒）、山口祐希（平成30年卒）	
（財務担当）	鳥巢哲生（現教員）、酒井香奈江（平成15年卒）	
（名簿担当）	大政健史（昭和61年卒）、内山 進（現教員）、 Sastia Putri（平成22年英語コース卒）	
（編集担当）	戸谷吉博（現教員）、山本 陸（平成27年卒）、川本晃大（現教員）	
（企画担当）	新聞秀一（現教員）、玉田佳大（平成22年卒；企業幹事兼）、谷口百優 （平成27年卒；企業幹事兼）、中島慎太郎（令和2年卒；企業幹事兼）	
監査	光島健二（昭和47年卒）、片倉啓雄（昭和57年卒）	

☆会員の動向（最近の動向がございましたなら、同窓会までご一報下さい）

●教職員の異動（令和6年7月から令和7年8月まで）

**Web版では個人情報のため削除いたしました。**

●会員訃報 心よりご冥福をお祈り申し上げます。

**Web 版では個人情報のため削除いたしました。**

●令和6年3月卒業、修了生進路等（工学研究科教務係提出資料より）

Web版では個人情報のため削除いたしました。

**Web 版では個人情報のため削除いたしました。**

#### 同窓会からのお願い

近年、企業合併や部署移動、市町村合併によって、住所変更や所属変更となる会員が増えておられます。これらに変更が生じた場合、同窓会 (doso@bio.eng.osaka-u.ac.jp) までご一報ください。なお、お寄せ頂いた個人情報は、尚釀会個人情報保護方針 (<https://www-bio.eng.osaka-u.ac.jp/doso/jusho.html>) に従い、適切に対応いたします。

●教室の構成（令和7年6月1日現在）

Web 版では個人情報のため削除いたしました。

Web 版では個人情報のため削除いたしました。

- クラス会幹事（クラス会幹事の方には会員の所属の移動等について同窓会への連絡をお願いいたします）

昭和 23 年	佐瀬 勝	昭和 49 年	小西喜朗	平成 12 年	井戸芳博
昭和 24 年	野口祐一	昭和 50 年	中塚正博	平成 13 年	後藤優治
昭和 25 年	足立 有	〃	東浦忠司	平成 14 年	有岡伸悟
昭和 26 年		昭和 51 年	溝口晴彦	平成 15 年	新家康弘
昭和 27 年		昭和 52 年	根来誠司	平成 16 年	和田 悠
昭和 28 年（旧制）	石川正人	昭和 53 年	金子嘉信	平成 17 年	藤井健治
昭和 28 年（新制）	高野光男	昭和 54 年	高木 睦	平成 18 年	鳳桐智治
昭和 29 年	嶋谷幸雄	昭和 55 年	滝沢 昇	平成 19 年	高木康弘
昭和 30 年	大嶋泰治	昭和 56 年	阿野貴司	平成 20 年	木村修一
昭和 31 年		昭和 57 年	片倉啓雄	平成 21 年	外尾竜太
昭和 32 年	細見正明	昭和 58 年	森川正章	平成 22 年	井村 誠
昭和 33 年	中桐義隆	昭和 59 年	藤山和仁	平成 23 年	吉田真理
昭和 34 年	野本哲也	昭和 60 年	中嶋幹男	平成 24 年	吉田隆史
昭和 35 年	森元英雄	昭和 61 年	大政健史	平成 25 年	長澤宏器
昭和 36 年		昭和 62 年	山本恵三	平成 26 年	都倉知浩
昭和 37 年	菅 健一	昭和 63 年	向由起夫	平成 27 年	小幡佑季
昭和 38 年		平成元年	永尾寿浩	平成 28 年	吉富耕太
昭和 39 年	藤田正憲	平成 2 年	松本雄大	平成 29 年	花谷耀平
昭和 40 年		平成 3 年	鈴木市郎	平成 30 年	光吉祐太郎
昭和 41 年	関 達治	平成 4 年	内山圭司	平成 31 年	有島凜太郎
昭和 42 年	卜部 格	平成 5 年	滝口 昇	令和 2 年	黒田将輝
昭和 43 年	関口順一	平成 6 年	松浦友亮	令和 3 年	安倍 玲
昭和 44 年	土戸哲明	平成 7 年	永久圭介	令和 4 年	川本優一
昭和 45 年	古川憲治	平成 8 年	金谷 忠	令和 5 年	川西寿和
昭和 46 年	山本忠行	平成 9 年	小林 肇	令和 6 年	時田好典
昭和 47 年		平成 10 年	田中礼央	令和 7 年	安達凌輝
昭和 48 年	曾根良昭	平成 11 年	永塚由佳		

- \* 昭和 22 年以前は、クラス幹事不在のため省略しております。
- \* クラス幹事が不在の学年は、ご相談の上、同窓会事務局までお知らせください。
- \* 各学年での同窓会等の行事を開催した場合は、是非同窓会までご一報ください。その際には、簡単な概要説明と写真などを添えて頂けると幸いです。

## 会員各位

名簿担当からのお知らせとお願い

①大阪大学生涯メールアドレスをお知らせください。

大阪大学を卒業・修了された方に、生涯使えるメールアドレス「XXXX @ alumni.osaka-u.ac.jp」が大阪大学から提供されています。大阪大学の Web メールシステム（OUMail）を用い、インターネット環境下ならどこでも送受信でき、自動転送設定も可能です。

平成 26 年 3 月以降の卒業・修了生＝すでに利用可能です

卒業・修了時、全員に OUMail 生涯メールアドレスが設定されています（申し込み不要）。

アドレスは、卒業の翌月初めに、在学中の大阪大学個人 ID をもとに自動で切り替わっています（例：u123456a@ecs.osaka-u.ac.jp ➡ u123456a@alumni.osaka-u.ac.jp）。

※在学中のパスワード、メールデータ、連絡先などの設定は自動で引き継がれます

※大阪大学の中で進学される方には、その課程を修了後に贈呈します

平成 26 年 2 月以前の卒業・修了生＝新規発行となります

アドレスは、申込者の氏名に基づき、下記の形となります。

【姓 - 名 - 英字 2 字（自動割り当て）】@alumni.osaka-u.ac.jp

申し込み等、詳細は下記の大阪大学の HP をご参照ください。

(<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/alumni/support/oumail>)

なお、生涯メールアドレスを取得された後、[doso@bio.eng.osaka-u.ac.jp](mailto:doso@bio.eng.osaka-u.ac.jp) にもアドレスをお知らせ頂ければ幸いです。尚醸会からの同窓会案内等を当該アドレスにお送りさせていただきます。

②個人情報保護法の改正について

個人情報保護法の改正にともない、尚醸会の管理する個人情報も当法案の対象となりました。尚醸会では、すでにプライバシーポリシーを設定（2009.11.13）しており（<https://www-bio.eng.osaka-u.ac.jp/doso/kojin.pdf>）、改正された個人情報保護にも対応しておりますのでご安心ください。

## 会員各位

拝啓、ますますご清祥のことと拝察します。

ご承知のとおり本会は皆さまの会費で運営を行っております。つきましては皆さまに会費の納入を是非ともお願いする次第です。なお、下記要領で令和7年度会費の納入をお願いしております。

### 記

#### 1) 払込用紙にて納入される場合

同封の払込取扱票を用いて、郵便局、コンビニエンスストアにてお振込下さい。

郵便局だけでなくコンビニエンスストアでもお振込いただける振込用紙を同封しております。用紙の変更に伴い、手数料込の金額を表示するようになっておりますが、会費（一口2,000円）および手数料に変更はありません。複数口納入いただく場合は、これまで通り郵便局でのお振込をお願いいたします。恐れ入りますが、手数料はご負担をお願いいたします。

（郵便局でのご記入内容）

払込先口座番号：00920-5-83256

払込先加入者名：阪大工醸造醗酵応生同窓会

金額：2,000円

#### 2) 郵便貯金口座自動払込を申し込まれる場合

最寄郵便局で自動払込利用申込書に必要な事項を記入の上、お申し込み下さい。

今後、毎年11月30日に貴口座より、年会費2,000円を自動引き落としさせていただきます。手続きの都合上10月15日までをお願い申し上げます。

（ご記入内容）

払込先口座番号：00920-5-83256

払込先加入者名：阪大工醸造醗酵応生同窓会

払込開始月：令和7年11月から

払込日：30日

払込の種類別：会費

（注：昨年度までに自動払込申込をされた方は新たな手続きは不要です。

自動払込手続をされた方は振込用紙で振り込まないようご注意ください。）

♪♪♪♪♪♪ 同窓生のみなさまへ会費免除のお知らせ ♪♪♪♪♪♪

いつも会費納入にご協力いただきまして誠に有り難う御座います。

同窓生のみなさまは卒業後50年経過しますと会費免除となります。

令和7年度は昭和50年卒の同窓生が該当致します。会誌送付や諸行事への参加などは今までと変わりありません。今年から免除になられた同窓生及びすでに免除になっておられる同窓生の皆様には、長い間会費を納入していただきまして有り難う御座いました。今後も同窓会へのご支援・ご協力のほど宜しくお願い致します。



大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物工学科

同窓会会報 第28号

令和7年9月19日 発行

印刷所 中西印刷

発行人 同窓会幹事長 福崎 英一郎 (昭和58年卒業)

〒565-0871

吹田市山田丘2-1

大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻内

ホームページ

<https://www-bio.eng.osaka-u.ac.jp/doso/>

電子メール

[doso@bio.eng.osaka-u.ac.jp](mailto:doso@bio.eng.osaka-u.ac.jp)